



コミュニティ推進者のつどい

防災意識の高揚を話し合う

日立市コミュニティ推進協議会では防災部門の推進者のつどいを実施。各学区コミュニティから選出された推進員71名が、ワークショップで防災意識の高揚を図るための方策を、次の3つのテーマでまとめました。

この結果は今後のコミュニティで活かされることとなります。

学区防災マップの活用を図るには
・いつどこで活用するかを明確に

- ・活用しやすいマップづくり
- ・避難や情報伝達など、見ればわかるマップづくり

防災リーダー育成・養成するには

- ・地域特性を活かした訓練の繰り返し
- ・地域の問題点の把握
- ・専門知識の修得
- ・声かけと雰囲気づくり
- ・リーダーのやりがいや喜び

地区住民の防災意識を高めるには

- ・計画立案から、呼びかけや支援協力依頼が重要
- ・見学体験などの実施
- ・防災訓練やパトロールの実施
- ・防災設備の充実
- ・防災知識の普及と広報活動
- ・地域の連携強化
- ・若い人の当用などで自主防災組織の充実



グループ毎に成果を発表

ゴミ収集の新システム

住民の“やる気”が鍵

日立市では6月1日から新しいごみの収集システムをスタートさせるため準備を進めていますが、コミュニティ推進協議会では説明会などで協力体制を組んでいます。

新システムのねらいは、ごみの分別区分をはっきりと示し、指定袋制(有料)などによって分離を徹底、ごみを減らし再び使えるものはしっかりと利用するシステムをつくることです。

これは収集・運搬の効率化、安全化、ごみ処理費の縮減、処理施設の延命化などにつながります。何よりもごみの資源化により環境に対する負担を少なくすることができます。



まずはリーダー対象の説明会

大量生産、大量消費、大量廃棄の社会から決別するための一歩です。

新システムを成功させる鍵は、最初にごみを出す市民一人ひとりの“やる気”にかかっています。学区コミュニティや支部で開催される説明会に出席して、新システムの内容をしっかりと理解し、市民・地域・行政が連携して成功させましょう。

上級救命講習者

大沼学区で24名が修了

大沼学区自主防災会では、2月9日(土)、東金沢公民館を会場に学区独自の上級救命講習会を開催しました。

学区コミュニティや自主防災会のリーダー、一般公募した人たち24名が参加、女性も4名が受講しました。

現在、日立市で上級救命講習終了証を持っている人は110名。「こんなに一度に多くの修了者が増えて力強い」と、消防署では出前講習会の成果を喜んでいます。

市では市民対象の普通救命講習会や応急手当普及員講習会などを開催しています。

地域の人たちの協働するまちづくりは情報を共有することが重要です。小学校区をエリアに活動しているコミュニティでは広報に力を入れています。

豊浦自治会

海と緑輝く みるさと豊浦

しおさい

創刊：昭和54年 通算発行数：65号
海と緑のふるさと豊浦を誇りとし、自治会活動への関心・理解・協力を図るために、心地よい潮の音となって伝わる内容と表現を工夫する。各種団体等の活動への理解と協力が図れるよう紙面の改善に努める。

諏訪



創刊：昭和63年 通算発行数：101号
編集会議の後、原稿の依頼や集まった原稿をパソコンに入力。これからの行事は記事を大きく、終了したものは小さくし、PRを中心に参加者の増加を考えた編集を行い、シリーズ方式で各自治会の紹介なども行っています。

田尻

田尻ネットワーク
THE TAJIRI NET WORK

創刊：昭和62年 通算発行数：33号
学区内行事だけではマンネリ化して読まれない。支部トピックスや、地域の人物紹介、各界に羽ばたく郷土のエースの情報など多彩な記事で、親しみやすい広報紙にしています。

滑川

なめ川

創刊：昭和50年 通算発行数：67号
「市民の会」の機関紙として、会の活動、内容等を地域の人たちに知らせる。地域の広報紙として、滑川地区の身近な情報や行事等を取材し、親しみのあるあり、読みやすい紙面を心がける。

22コミュニティ広報紙
地域の特色を満載

宮田

宮田まなざし

創刊：昭和59年 通算発行数：36号
地域の皆さんと交流が図れ、親しみある広報紙を目標に向けて発行しています。また、百年塾広報紙コンクールでは3年連続入賞しました。

中里

ながさと

創刊：平成6年 通算発行数：142号

地域がかかえる過疎化、高齢化などの諸問題を見据えながら、地域の実情に沿った市民活動や、明るく住みよい地域づくりを進めるための広報紙の編集、発行に努めています。

仲町

仲町ふれあい

創刊：昭和50年 通算発行数：91号

親しみやすく読みやすい広報紙をめざして、各種行事の結果と参加者の感想及び行事案内などを主とし、同好会の紹介や随筆、各町内の行事なども掲載しています。

中小路

中小路

創刊：昭和56年 通算発行数：51号

地域密着の紙面を心がけています。

- ①読む紙面より見たくなる紙面づくり
- ②紙面の主人公は地域の人たち
- ③街の変化を写真と文で紹介
- ④地域が抱える問題をクローズアップ

助川

助川

創刊：昭和53年 通算発行数：46号

学区の情報紙であることを念頭に、表現豊かに、見て読まれる機関紙づくりを心がけています。

会瀬

会瀬プラトマト

創刊：昭和52年 通算発行数：107号
見られる、読まれる広報紙にするには大きな文字で短い文にし、見出しを見れば内容が判る紙面。写真を多く入れ、住民の多くの顔や個人名を掲載する。地域の伝説や伝統芸能の紹介などの記事を導入している。

成沢



創刊：昭和48年 通算発行数：159号
成沢ふれあい推進会に親近感や連携意識が芽生え、情報を共有することから、相互理解が得られ、みんなから支持され協力してもらえるような使命もっている。みんなに待たれ、読んでもらえる新聞づくりに取り組んでいる。



編集もパソコンの時代

油縄子

ゆなご

創刊：昭和51年 通算発行数：44号
ずぶの素人なので、これまでの広報紙をそのまま真似ている状態です。
今年の「百年塾広報紙コンクール」で厳しく指導を受けたので、少しでも「地域の広報紙」としての役割を果たす努力しようと考えております。



編集会議は夜に開催 (日高)

日高



創刊：昭和61年
通算発行数：85号

コミュニティ活動の広報

を中心に、地域の様々な情報の発進も心がけている。多くの素人委員で、取材し編集活動することも、大切なコミュニティ活動と考えている。百年塾広報コンクールでは、目下3年連続で本部長賞受賞。

大久保

創刊：昭和48年
通算発行数：73号

コミュニティプランのアンケート調査で、回答者の93%の住民が読んでいるということがわかりました。更に、地域の皆さんに楽しく読んでもらえる話し合いを重ねています。



河原子



創刊：昭和54年 通算発行数：46号
年間の基本方針、事業の経過と事業計画の要点を中心に編集し啓発する。個々の事業については、事業ごとに全

世帯配布のチラシを作成し配布する。

埴山



創刊：昭和56年
通算発行数：250号

広報紙は活動の記録と同時に会の牽引力。創刊以来1回も休まず発行を続けてきました。情報を共有することは大切なこと。

名前や写真で多くの子どもたちや地域の人を登場させています。

金沢



創刊：昭和50年 通算発行数：69号
平易な文章で、できるだけ大きな写真載せること。記事は会の行事報告が第一。行事は毎年同じなので、内容に新鮮味を出すのに苦勞。昨年度「支部の声」欄を設けた。定着の感あり。

大沼



創刊：昭和51年 通算発行数：78号
各種行事の実施状況の結果を広報することに重点をおいている。個別の行

事などは回覧も使って参加を呼びかけている。できるだけ親しまれ、分かりやすいように写真を多くしている。

水木



創刊：昭和57年
通算発行数：52号
広報紙「水木」は活動の様子だけでなく、生活に役立つ情報や地域に密着した情報等をタイムリーに伝える、住民に親しまれる広報紙づくりに努めております。

大みか



創刊：昭和55年
通算発行数：64号

地域特有の身近な行事や活動を取り上げ、写真にはできるだけたくさん顔を載せています。記事はできるだけわかりやすく読みやすいよう心がけています。百年塾の広報紙コンクールに参加し、レベルアップを図っています。

久慈



創刊：平成6年 通算発行数：22号
住みよい久慈まちをめざして、各種団体紹介や行事発表等を載せますが、犬の糞害条例ができて以来、固定的に記事として扱い、効果が出ています。記事をごちゃごちゃさせずあっさり編集しています。

坂下



創刊：昭和55年 通算発行数：249号
発会の精神を基本におき、地域の環境を豊かに青少年健全育成のためにも、文化・福祉・スポーツ等の交流を通して、地域の人々の交わりが深まる紙面になるよう、17地区から選ばれた広報委員と共にがんばっている。



コミュニティ推進協議会 単会リレー訪問

市内には小学校区をエリアにコミュニティ活動する団体が22あります。それぞれの地域の特色を生かしながら、住民と一緒に住みよいまちをつくるための活動を続けています。今回は成沢ふれあい推進会を紹介します。

子どもと鮎川の自然を育む

成沢ふれあい推進会

「地域に年々危険箇所が増えてきているところから、自主防災マップを作り、事前に危険予知を伝えられる地域内情報ネットワークを進めていきます。パソコン教室や地域内情報ネットワークによる人の輪づくりと、情報発着信の到来と、成沢ITの波を広げようと励んでおります」と、西成田輝副会長は話しています。

地区の特長

日立市のほぼ中心に位置し、国道6号線、中央線が通り、青葉台団地のほか大きな団地、さらには、茨大工学部をはじめ教育施設が密集した地域です。

その上、埋蔵文化財も豊富でたくさんの教育者を輩出しています。

会の構成

成沢公民館に事務局を置き、広報・環境美化・文化・自主防災の4部と、地区体育振興会、青少年育成推進会と地域活動部としての7支部で構成しています。

活動方針

「ふれあい、話しあい、助けあい」をモットーに気楽に広く参加できる活動を活発にして、会員相互の親睦と交流を図り、明るいまちづくりに努めています。

特徴的な行事

《鮎川渓谷探勝会》

成沢の自然を地域の人や子どもに知ってもらおうと、自然探索を楽しむ「鮎川渓谷探勝会」を、永く続けています。河口から鮎川に入り、上流まで8Kmを川のぼりするスリル満点の行事です。水深のある鮎川洞門

をくぐり、魚やサワガニなどを獲ったり、川辺の自然に触れ親しみを覚えるなど、人気のある行事です。

《稚魚の放流会》

成沢小学校と共催で、ここ数年前から、鮎川への鮎稚魚の放流会を行っています。昨年は史上稀に見る数百尾の鮎の遡上が見られま



それ引けパワー全開!



さあ行こう元気に

した。これは以前から実施してきた鮎川をきれいにする活動が実った証でしょう。

《三大祭》

8月の「ふれあい盆踊り大会」と10月の「成沢町民体育祭」、それに11月に行う「文化祭」。この三大祭を毎年盛大に実施しています。

今後の展望



会長 関 正一
副会長 成沢公民館
TEL 35-5587
世帯数 5,419
人口 12,278
(平成13年10月1日現在)

コミュニティあれこれ

「リーダー」は人々の協力の輪を壊さないため、次のことを心がける必要がある。

『コミュニティ・リーダーの十戒』

1. 人の悪口、批判を言うな。
2. 自分の利益だけを考えるな。
3. 自分の意見や考えだけに凝り固まるな。
4. 気心の知れた者とばかり行動するな。
5. 人に命令したり人を監督したりするな。(次号へ)